

茶病虫害防除情報

【第 5 号】

令和 6 年 3 月 28 日
鹿児島県経済連・肥料農薬課

ハマキムシ類の生物的防除法

性フェロモン剤・ハマキコン N および天敵微生物剤・ハマキ天敵による防除法

一番茶芽の生育が始まり早場産地では摘採時期も近づいてきました。気温が上がり、病虫害の動きもみられてきました。4 月分の発生予察情報ではハマキムシ類の発生は平年に比較し早いようで、特にチャハマキの発生が多い予想となっています。そこで、本県でこの時期すすめられているハマキムシ類の生物的防除法の性フェロモン剤 **ハマキコン N** および天敵微生物剤 **ハマキ天敵** による防除法について処理時期が近づいていますので紹介します。なお本防除資材は有機栽培 JAS 規格に認められています。

合成性フェロモン剤

- ・ **ハマキコンN** (ローフ[®]製剤 ティスペンサー[®]製剤)
- ・ **適用害虫** チャノコカクモンハマキ チャハマキ
- ・ **特徴と使用法**
 - ・ ハマキムシ類雌成虫が放出する性フェロモンの合成剤である。
 - ・ ハマキムシ類の雌雄の交信攪乱で、交尾行動を阻害し、交尾率を下げ、産卵密度の低下、幼虫密度低下を図る防除資材である。
 - ・ 効果発現は遅効的で、第1回成虫期処理で、6ヶ月程度発生を抑える。
 - ・ 大面積処理で効果が安定する。害虫密度状況(多)で、効果が不安定化することがある。
 - ・ ティスペンサー製剤とローフ[®]製剤があり、ティスペンサーは樹冠下10cm設置のため手間を要する。ローフ[®]製剤は園周辺部に張り巡らすので比較的容易である。
 - ・ 種特異性が高く人畜、他生物、天敵への影響がなく、安全性が高い。

ハマキコン N の使用時期・・・成虫発生初期～発生終期まで (3 月～11 月)

ハマキコン N の使用開始時期・・・越冬世代成虫の発生前 (3 月頃) が基本である。

今年は気温が高く発生が早く、多いため早めに設置する。

秋期 (第 3～4 世代) までの残効性を考慮し、第 1 世代成虫の発生前 (5 月上中旬) にする方法もある。

処理方法 ティスペンサー・・・150～250 本/10a 2.2～2.4m 間隔で樹冠面から 10 cm 下方の枝に巻き、固定する。

ローフ[®] 製剤・・・30～50 m/10 a 支柱などを立て茶園周辺に張り渡す。

処理面積・・・本剤の効果を高めるためには大面積で実施する。50 a 以上の集団茶園で使わないと効果を得にくい。

